

ー文化の薫る活力ある地域づくりをめざしてー 財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」15号の発行

2. 普及講座の開催
陶芸入門講座（8回講座）
期 日／平成23年5月～12月
会 場／勝央町公民館・工芸室
参加者／25名



「絵画教室」の様子

絵画教室（前期6回・後期6回）
期 日／平成23年4月
～平成24年3月
会 場／勝央町公民館・工芸室
参加者／前期19名・後期21名

夏休みこども体験講座 涼しげな器をつくろう！
期 日／平成23年8月6日
会 場／勝央町公民館・工芸室 参加者／30名

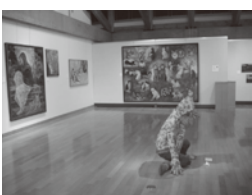
3. 事業協賛に伴うPR活動 金時祭花火大会への協賛

芸術文化活動事業

1. 展覧会の実施

【主催事業】
■絵画展の開催
○公募展「第8回ミマサカコども絵画展」
会 期／平成24年1月6日～2月5日
会 場／勝央美術文学館・展示室・町民ギャラリー1・2

○gallery exhibition vol.24
「ふくしまえみ・水嶋晴香
・水嶋裕一作品展」
会 期／平成23年2月18日
～3月18日
会 場／勝央美術文学館
町民ギャラリー1



gallery exhibition vol.24
「ふくしまえみ・水嶋晴香・水嶋裕一作品展」会場風景

その他の事業

- 1. 文化財資料収集保存事業
- 2. 学術的研究及び図書の発刊事業等の事業を継続しておこなっております。

地域の文化活動を応援します！

当財団は、地域の芸術文化振興のための助成活動を実施しております。詳しい内容は、財団HPをご覧ください。

編集後記

今年度、当財団では、文化財資料収集保存事業費で、岡本綺堂の代表作『半七捕物帳』をはじめとして、未発表の珍しい草稿を多数購入いたしました。来年度、勝央美術文学館で開催の「作州のシャーロック・ホームズ」展へ、これらの資料を出品予定です。綺堂ファン必見の資料ですのでどうぞお楽しみに！（E.N）

額田やえ子（1927～2002）
愛用のカセットデッキ

故額田やえ子女史は、勝央町出身の脚本家額田六福の長女で、映画雑誌の編集者を経て洋画のテレビシリーズなどのアテレコ用台本の翻訳を手がけ、この世界の草分けとなりました。この愛用のデッキなどで、洋画TVドラマの「コンバット」や「大草原の小さな家」「刑事コロンボ」など数々の翻訳を手がけ、「刑事コロンボ」では、「ウチのカミさんがね、」という親しみ溢れる有名なフレーズを生み出しました。



作州路

Vol. 15
2012/3

開館10周年を迎える勝央図書館と岡本綺堂著『半七捕物帳』第一巻、額田やえ子翻訳台本『シャーロック・ホームズの冒険／バスカビル家の犬』



今年は、イギリスの小説家 コナン・ドイルが、シャーロック・ホームズシリーズ第1話「緋色の研究」を雑誌に発表してから125年目にあたります。ところで、この作州とホームズには意外な縁があり、勝央町は、劇作家額田六福の娘で翻訳脚本家の額田やえ子、六福の師である戯曲家で小説家の岡本綺堂、津山市は、翻訳家の延原謙、美作市には、小説家の阿部知二と、まさにホームズシリーズを日本に紹介した第一人者たちが勢揃いしています。この秋には、これらの人々を一堂に紹介する展覧会が開かれる予定です。良い機会ですので、今一度じっくりとホームズの世界に浸ってみませんか？

平村人と栗柄神社

赤木耕三（あかぎ こうそう 平地区防災危機管理担当 評議員）

1. 金時没後 1000 年法要祭

平成 23 年 10 月 8 日（土）金時没後 1000 年にあたり、静岡県小山町の町長ほか 8 名の方をお招きして、平地区片山にある栗柄神社において、神官臨席のもと、坂田金時（公時）の法要祭を執り行いました。

もちろん、この法要祭には、地域の大切な宝として、日頃から、この神社の管理をしてきた、植月徹会長以下の平地区の住民も多数参集し、今が健康であること、生かされていることに感謝し、参加者全員で栗柄神社の祠へ拝礼しました。

神事のあとには、御神酒で乾杯。遙か、静岡県から来られた、小山町の町長 込山正秀氏のご挨拶をいただき、地区会長より感謝の意を述べ、＜金時＞が取り持つ互いの絆を深めべく懇親会を開催しました。

また、今回の神事に併せて、平地区より新たに、石灯籠 2 基と鈴の紅白紐を神社へ奉納いたしました。

2. 神となった坂田金時

坂田金時が、九州征伐の途中熱病で没してその亡骸（なきがら）を祀ったとされる栗柄神社のある小高い丘は、（中国自動車道開通までは）勝間田の集落が眼下に広がり、忠節で武勇伝多く 55 歳で没したというこの武将が葬られるのに何ともふさわしい場所です。



栗柄神社にお参りする小山町長 込山正秀氏



栗柄神社と中国道

この栗柄神社についての 1000 年は、伝承や逸話も多く、中でも、秘蔵の神社棟札には、八代将軍吉宗の時代である享保年間に、本殿を建立した旨の記述が明記されており、それから数えても、実に 300 年以上の歴史があることが分かります。

また、神社に隣接する、平 三郎氏方には、『天保 6 年霜月 15 日』と入った栗柄大明神の布の幟（のぼり）が保存されており、毎年勝央町の金時祭には、これを立てています。

神社境内の清め手洗石は、「嘉永元年五月」と刻まれており、平氏子中が平穏を願いこれを寄進しました。

また、村には明治 13 年に、部落の戸長が、『建立仕候條奉願上候也』としたため役所へ出した古文書が残されています。

金時は、没して 1000 年の長い歳月の中、平村人の祀る神となって、龍王の別称である、『俱利伽羅権現』となり、後に栗柄神社の祭主神として祀られ、現在まで、平村人の心の支えとなって今に生きているのです。

3. 村人の信仰と文化財への想い

栗柄神社は、こどものお宮参りをはじめ、眼病快癒を願って木刀を奉納する人もおり、葬儀の清めとして、塩滝の水をもってする風習なども、この金時没後に由来するものですが、近年、その風習は消えつつあるようです。

この神社は、地域の文化財であるだけでなく、滝川を挟んで北側に位置する八幡宮とともに武将にまつわる大切な平村の財産です。先人が今日まで守り続けた、この心と形を大切にし、次なる世代へ伝承していきたいものです。

法要の翌日には、第 30 回を迎える勝央町金時祭が開催されました。この祭のパレードでトリを務める「金時山車」をもって、参加する平村人たちは、ますます忙しくなり、いよいよ本番となる秋の一日を迎えました。

【参考文献】

木村増夫 著『坂田公時伝』
勝央町 発行『勝央町誌』
平誌編纂会議 発行『ふるさと平誌』
（株）学習研究社 発行『日本の神々』

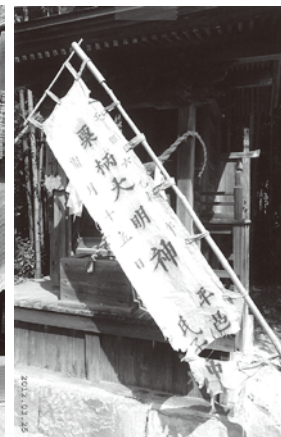
【資料提供】

植月恵子
木村泰二
（50 音順／敬称略）

享保の棟表札



栗柄大明神の幟（のぼり）



手洗水の自然石

坂田金時伝説

956 年（天曆 10）
するがのくに 駿河国坂田（現 静岡県小山町）に
やえがき 彫物師 十兵衛の娘・八重垣と宮中
さかたのくらんど に 仕えていた 坂田蔵人との間に

生まれる。幼名・金太郎。

976 年（天延 4）
あしがらとうげ 3 月 21 日、足柄峠にさしかかった
みなもとよりみつ（らいこう）

源頼光と出会い、その力量を認められて家来となる。名前も坂田公時と

改名し、京にのぼって 頼光四天王
らいこうしてんのう
わたなへのつな うらへのすえたけ うすいのさだみつ
（渡辺綱、卜部季武、碓井貞光）の

一人となる。

990 年（永祚 2）
たんばのくに おおえやま 天皇の命令により丹波国大江山
す

（現京都府福知山市）に棲みつき 都
しゅてんどうじ に訪れては悪行を働く酒呑童子を、

源頼光や四天王たちが山伏姿に身

をかえ、神便鬼毒酒（眠り薬入り酒）

を使って退治した。

1012 年（寛弘 8）
つくし 冬、九州の賊を征伐するため築紫
（現北九州市）へ向かう途中、重い熱

病にかかる。頼光らの看護の効なく、
さくしゅうじみまさかつまたのしょう
作州路美作勝田荘（現岡山県勝央町）

にて死去。享年 55 歳。

頼光は、我が子を失ったかのように
たいら きんときづか に嘆き、平の地に金時塚を祀った。

現在、金時塚は「剛勇」を意味する
くりから くりから
「俱利伽羅」から栗柄神社と改称され

永く祀り続けられている。

参考：『坂田公時伝』木村増夫
『足柄山の金太郎』金時伝承調査会編



「少年金時」山形弘 画／木村泰二 蔵